

平成29年10月～12月期
地域産業経営動向調査
〔報告書〕

堺 市

〔 調査実施機関
堺 商 工 会 議 所 〕

調査の概要

1. 調査目的 堺市管内事業所の経営動向の実態を四半期毎（3月期・6月期・9月期・12月期）に調査し、業況判断指数DI値等により景気動向を把握する。
2. 調査対象 堺商工会議所会員事業所800社（建設業200社・製造業200社・卸売業100社・小売業100社・サービス業200社）
3. 調査期間 平成29年12月15日（金）～平成29年12月29日（金）
4. 回収率

	調査対象数	回収数	回収率
建設業	200社	102社	51.0%
製造業	200社	100社	50.0%
卸売業	100社	51社	51.0%
小売業	100社	51社	51.0%
サービス業	200社	103社	51.5%
全産業	800社	407社	50.9%

【主要な表現について】

- 業況判断 … 調査対象企業が自らの業績に下した判断。
- DI値 … 「好転」したとする企業割合から「悪化」したとする企業割合を差し引いた値。

【各項目別のDI値の意味について】

- 業況判断 … DI値がプラスなら「好転」を、マイナスなら「悪化」を表す。
- 売上高 … DI値がプラスなら「増加」を、マイナスなら「減少」を表す。
- 採算 … DI値がプラスなら「好転」を、マイナスなら「悪化」を表す。
⇒今期状況 … DI値がプラスなら「黒字基調」を、マイナスなら「赤字基調」を表す。
- 資金繰り … DI値がプラスなら「容易」を、マイナスなら「困難」を表す。
- 雇用人員 … DI値がプラスなら「増加」を、マイナスなら「減少」を表す。
⇒今期状況 … DI値がプラスなら「不足」を、マイナスなら「過剰」を表す。

調査結果の概観

今期(10月～12月期)の前年同期比を見ると、業況判断、売上高、採算、資金繰りは改善、雇用人員は横ばいであった。

来期(1月～3月期)の予測については、採算及び雇用人員は改善、業況判断はやや改善、売上高はやや悪化、資金繰りは悪化となっており、引き続き市内中小企業の動向については、注視していく必要がある。

1. 業況判断の動向

・前年同期比の指標は改善。
($\Delta 19.1 \Rightarrow \Delta 6.1$)

・来期見通しの指標はやや改善と予測。
($\Delta 6.1 \Rightarrow \Delta 3.7$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、建設業、製造業、卸売業及びサービス業は改善。小売業は2期連続で悪化。

・前年同期比の指標は改善。



2. 売上高の動向

・前年同期比の指標は改善。($\Delta 14.9 \Rightarrow \Delta 0.7$)

・来期見通しの指標はやや悪化と予測。
($\Delta 0.7 \Rightarrow \Delta 2.9$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、小売業及びサービス業は2期連続で改善。建設業、製造業及び卸売業は改善。

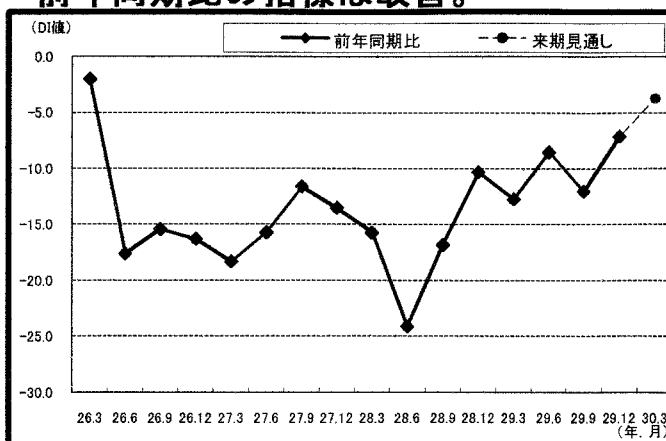
・前年同期比の指標は改善。



3. 採算の動向

- ・前年同期比の指標は改善。
($\Delta 12.0 \Rightarrow \Delta 7.1$)
- ・来期見通しの指標は改善と予測。
($\Delta 7.1 \Rightarrow \Delta 3.7$)
- ・業種別に前年同期比の指標を見ると、
製造業、卸売業及びサービス業は改善。
建設業は横ばい。小売業は悪化。

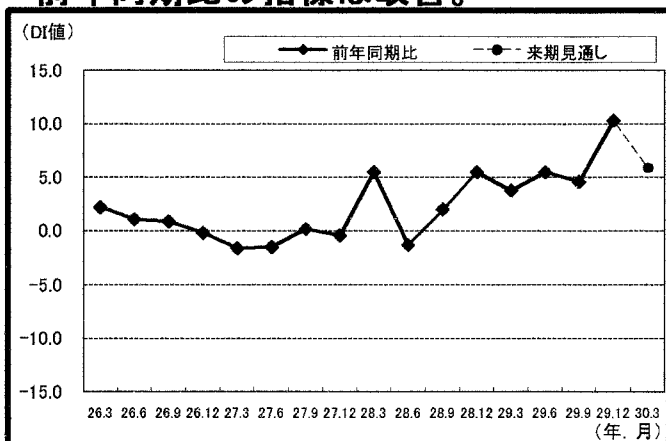
・前年同期比の指標は改善。



4. 資金繰りの動向

- ・前年同期比の指標は改善。
($4.6 \Rightarrow 10.3$)
- ・来期見通しの指標は悪化と予測。
($10.3 \Rightarrow 5.9$)
- ・業種別に前年同期比の指標を見ると、
建設業及び小売業は2期連続で改善。
製造業、卸売業及びサービス業は改善。

・前年同期比の指標は改善。



5. 雇用人員の動向

- ・前年同期比の指標は横ばい。
($\Delta 2.9 \Rightarrow \Delta 2.7$)
- ・来期見通しの指標は改善と予測。
($\Delta 2.7 \Rightarrow 0.5$)
- ・業種別に前年同期比の指標を見ると、
建設業及び卸売業は改善。サービス業
はやや改善。製造業及び小売業は悪
化。

・前年同期比の指標は横ばい。

